

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100248		
法人名	有限会社 鈴の音		
事業所名	グループホーム 宿の里		
所在地	山梨県甲府市右左口町805-6		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな山の麓に立地し、遠景に南アルプス・ハケ岳・茅ヶ岳が観え、眼下には甲府盆地と桃畑が一望できる環境です。建物はゆったりとした木造平屋建て、吹き抜け・床暖房となっております。また、デイサービスを併設している為、大きなイベントは合同で賑やかにっております。利用者本位のケアを忘れずに、心の安定に努め心地よい場所作り、入居者同士の間関係の構築を図り、生きる活力となるよう支援させていただきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年2月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、南アルプスや眼下には、甲府盆地が一望できる静かな丘陵地で、周りには桃畑があり豊かな自然環境にある。建物は、平屋建てでデイサービスと併設している。外階段には、季節の花がプランターに植えてあり優しい心配りが感じられる。管理者や職員は、「仕事の8か条」に沿って、初心を忘れず・思いやり・感謝の気持ちを忘れず日々取り組んでいる。自分の衣類は、自分で洗濯し、干し、取り込んだり、昼食に使う卵を混ぜている男性の利用者もいて、一人ひとりの出来る事を見守り支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム宿の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は仕事の心得が8カ条あるがその中でも特に2の思いやりを忘れずに日々の活動に実践している。	仕事の心得8カ条が事務所に掲示してあり職員は、タイムカードを押す際に常に目にして確認している。月1回のカンファレンスで、利用者の状況を確認し、仕事の心得に沿って支援出来たかを話し合い共有し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご家族や自治会役員等に運営推進会議に参加して頂き話し合いの場や自治会行事には積極的に参加させて頂いている。	自治会に加入し、回覧板が回って来る。河川清掃に参加は地域住民との交流の場となっている。どんと焼きや子どもわんぱく相撲など地域行事に参加するように声を掛けてくれたり、散歩時に顔見知りの方が声を掛けてくれ地域の一人として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の悩み等を聴き、認知症という症状や対処法を一緒に考え、良い方向へ行くように援助する。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	毎回活動状況の報告を行い今後の活動を話し合ったりしています。また、自治会長から地域での活動状況をいただきボランティア等の受入を協議する。	2か月に1回、基本的に第3水曜日の平日運営推進会議を行っている。スプリンクラーの設置について、水圧が低いなどのようにするのか話し合い、市に相談しアドバイスを受けた。自治会の方から事業所でのボランティアの紹介を受けた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談等市役所担当者で行っている。(平成26年2月の大雪の時)	運営推進会議の機会に事業所を理解してもらい、問題があった時には、連絡を取り合い相談に乗ってもらい、職員との協力関係が作られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中自動開閉にしたある。スピーチロック等にはに関しては業務終了後個別に注意をし今後の戒めとする。	玄関の施錠は日中はしていない。スピーチロックが見うけられた折は、管理者が注意している。興奮状態の利用者が、夜間窓から外へ出てコンビニまで行ってしまった事があり、利用者の安全確保の為状況により、医師や家族と相談して薬の処方を受ける事もあるが出来る限り見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロック同様繰り返し職員間で話し合い予防・防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ機会もあるが、理解までには程遠い			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まった時点で、家族または身元引受人となる方を交え、契約内容など心配や不安が無いように、十分話し合いをし、理解を得ている。実際の細部についても話し合い疑問や要望も聞いている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当事業所の玄関にご意見箱を設置し、常に利用者・家族からの意見を聴く事ができるようにしている。しかし、大半は面会などの際にご家族とお話をして直接意見を聴く事が多い。月に1回家族への手紙などでも報告し、課題点があれば改善策を職員と話し合い周知徹底している。	車椅子の利用者から「歩けるようになりたい」との希望があり歩行訓練をしている。また、家族からの希望は、面会時に聞き「外出の機会を増やして欲しい」との意見を受け入れ対応している。職員は相談を受けたら管理者に報告し、利用者・家族の意見が出し易い雰囲気づくりをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム内のミーティングで全職員が出席し、議事録を作成し議事録を綴り、再度確認ができるようにしている。	職員同士、日常業務の中で話し合い利用者の過ごし易い共有の場を作っている。外出時に弁当を用意したい旨を管理者に提案し一緒に考える機会を設けて実行し運営に反映させた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に関々への面接を実施し、意見を取り入れたり条件の整備を図っている。出来る限り職員の勤務希望を聞き入れるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている				
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県や甲府市等から案内される研修会に出来る限り参加してもらう。			
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	とにかく話を聴き安心して頂けるように話し合いを重ねる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が安心して暮らしていける環境作りをし、必要に応じて訪問歯科や訪問マッサージを導入している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人の役に立つことの喜びを感じてもらえるように、声掛けをし、出来る事を妨げない自立支援を心がけている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を近くに感じていただける様可能な限りご家族に協力を頂いている。(月に1度は来所をお願いしている)			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は自室にて一緒に過ごし可能な限り、その方にとって楽しみや生きがいを断つことのないように配慮している。	面会が1か月間無い利用者には、家族に連絡しできる限り訪問してもらうようにしている。家族とお墓参りに行き食事を一緒にしてきたり、お孫さんと買い物に行く・以前住んでいた家を見に行くなど関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の片づけやおやつ作り、体操や散歩など一緒に時間を共有し、共に支え合う環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても遠慮なく相談して頂けるように声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活に少しでも近づけるように努めている。	日々の関わりの中で声掛けをし、利用者の思いの把握に努めている。意思を表せない利用者には、日常の行動パターン・表情、行動から汲み取り把握している。家族と連携しながら利用者の気持ちに近づけるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりと行い、その人らしい生活に近づけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の持っている力に応じて、掃除や茶碗拭きなど手伝って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行っておりそこの意見を短期目標の見直し時に取り入れ、その記録をもとに計画書の継続か変更を考える。	基本的に介護計画は3か月毎に見直している。全職員で個々のケースカンファレンスをケア中心として行う。本人・家族の要望や変化に応じて臨機応変に見直しをした介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録の中にそれぞれの短期目標のチェックを行っている。また職員間の中で気付いたことなどを話し合い、共有できるように申し送りノートに記載し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望や家族の状況に応じて、退院や外出など必要な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	甲府市介護保険課・地域包括支援センターなどの推進協会等への参加をはじめ、随時相談し、入所者の暮らしを支えていけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に病院受診は、できるだけ家族の協力を得ているが、不可能な場合は個別に通院援助している。インフルエンザも事業所全体で対応しています。	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診は家族が対応するが、都合の悪い時は職員が同行支援する。利用者に変化があった時は、利用者情報を書面で家族に渡し、受診後、家族からの報告を受け、薬など変わった時はケース記録や申し送り簿に記録する。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎日施設に訪れ入所者の身体状況の把握。管理・指導を行っている。また、適切な判断や受診の必要性の判断を受けられる様にしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師・医療ソーシャルワーカーと情報交換し本人とご家族の支援をするように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合の対応・対策・終末期についてその状態になった時に家族との話し合いの中で、方針を決めていく。当事業所には医師や常勤の看護師が居ない事やリスクについても説明しその上で納得された場合、書面にて同意もらっている	重度化、看取りについては、利用開始時に書面で確認している。2～3年前に看取りをしたケースがある。1週間位食事・水分が摂取出来ない重度化した時は、かかりつけ医に相談し、再度、本人・家族に意志を確認して安心して、納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	以前、看取り体験があった、との事だがまだまだ職員の不安は大きいと思われる。終末期や看取りについてマニュアルの整備や研修を重ね、又、地域の訪問看護や医師との連携を確認して、希望のある時には何時でも受け入れられるよう、今後の取り組みに期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定をした防災訓練ということで夜勤者1人で火災・地震等を想定し計画・実践・見直しをしている。また甲府南消防署に依頼して防災訓練を行っている。	夜間訓練を年6回行い、職員が初めての夜間勤務の時も訓練の体験している。消防署から避難訓練について指導を受けた事を活かし避難経路、避難場所への誘導など確認出来た。備蓄品は食糧が1週間分用意されている。	夜間の防災訓練を年6回行っているが、災害は何時、どのような形で発生するか分からない。訓練の度に振り返りをし、今後も、体験を通しより深めた訓練の継続を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の部屋はノックをし声を掛けて入室する。	年長者として敬意を払い、人格を尊重した声かけをし、居室に入る際には、ノックをするよう日常より心掛けている。書類は事務所で管理者が管理し、帰る際は鍵を掛け責任ある取り扱いをしている。守秘義務について職員は理解している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように考える時間をおき、余裕を持って声掛けを行う。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の変化で起床や食事など決まった時間での行動を強要することなくその時々で対応していく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している				

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルへの配膳・下膳・食器拭きなど手伝ってもらっている。また、食事の際は利用者、職員が一緒にテーブルで歓談し食事を摂る。今までは献立を立てていたがその日の要望で都度利用者を巻き込んで作っている。	献立は、利用者の希望を聞いて、その日によって考える。食材は、1週間分用意しており、3食厨房で作っている。職員は、利用者の食事介助をしつつ会話をしながら同じ食事をしている。朝、卵を混ぜる手伝いをしていた男性の一品が出されてきた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者の状態に合わせて食べやすいように対応している。食事量・水分チェックを毎食後行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者は毎食後歯磨きをしている。また眠る前に義歯は洗浄剤に浸けてもらう。利用者によりマウススポンジで仕上げをし口腔ケアを行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、誘導し失敗が無いように声掛けをしている。個人の排尿回数や時間帯のチェックをし、その都度誘導している。	排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。日中布パンツの利用者には、念のため、夜間はパットを使用し、本人に合わせて検討している。また、紙おむつの使用からリハビリパンツ・パットになった利用者もいて、一人ひとりについて常に見直しをし支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活にし、極力薬に頼らず自然排泄出来るように運動や水分補給のチェックをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から金曜日まだ入浴を実施している。土曜日または日曜日は足湯を実施している。	入浴は基本的に週2回であるが、利用者の希望に沿った時間帯に入浴出来る。入浴拒否の利用者は、無理に勧めず時間をずらしたり、翌日に対応するなど工夫をしている。同性介助希望の利用者には利用者の心情を理解し入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の今までの生活習慣で就寝時間は、個々の対応としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何に興味があり今何をしたいのかを観察しながらレクなどに取り入れていくまた、出来る限り外出の機会を作っていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天気にもよるが朝・昼・夕と散歩を生活に取り入れている方もいる。職員は様子を観察しながら一緒に付き添っていく。	天候や利用者の体調に合わせて、ほぼ毎日近所を散歩している。季節毎の行事には、動物園・バラ園へ花見・河口湖にラベンダーを見にドライブに出かける。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金を管理している方もいる。敷地内の自動販売機でジュースを買ったり、パンの移動販売などで好きな物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等から電話が来たり、家族に用事のある方は職員に声を掛けて頂き何時でも連絡が取り合える。また携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		玄関を入れて左手の広いフロアに四角に配置されたテーブルがあり、利用者全員の顔が見られるようになっている。廊下には年間の行事に合わせて手づくりのタペストリーが飾ってある。トイレは、男性用・女性用を備えて使い易くなっている。風呂場は、家庭風呂よりやや広めの浴槽で、電気器機の足湯もあり居心地の良い場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にある程度自分の居心地の良い場所があり、ゆったりとテレビを見ていたり会話を楽しんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもとご自身に馴染みの家具などを持ってきて頂き、居心地の良い環境作りに努めている。家族談笑の場所としている。	居室は、カーテン・エアコンと利用者に合ったベッドが置いてあり、テレビ・家族の写真やシベリア抑留写真を飾っている人もあり、家族と一緒に飾り付けをし、それぞれが自分らしい居心地の良い居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名前を表示している。		